

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02229

研究課題名(和文) 近現代ベトナムにおける中国プレゼンスの諸相 - 連環人文的ベトナム地域研究

研究課題名(英文) Many Aspects of Chinese presence in Modern Vietnam

研究代表者

今井 昭夫 (Imai, Akio)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20203284

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、言語、宗教、歴史、国際関係の各側面から現代の中越関係を捉えようとする試みである。言語面では現代ベトナム語における漢越語の研究を通して、漢字のもつ語彙作成力が健在であることを確認した。宗教面では、19世紀後半以降に中国の民衆宗教が伝播し、現在にいたるまでその潮流が「明師道」、「カオダイ教」などに伝えられていることを明らかにした。歴史、国際関係の面では、1979年勃発の中越戦争が1か月の限定戦争ではなく、1989年まで続く十年戦争であることを提唱した。フランス植民地期を含むベトナム近現代史において、離反・反発もありながら、一貫して同時代中国の強い影響をベトナムは受けていることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究による言語研究の成果である『日越2か国語における漢語用法の対照』は、従来の音韻的・語彙論的な漢越語研究にとどまらず、語法にまで踏み込んで研究した点が画期的だといえる。宗教研究では、日本で初めてベトナムの宗教「明師道」を紹介し、中国の民衆宗教やカオダイ教との関係を明らかにした。歴史・国際関係の研究では、中越戦争が1979年2月から3月にかけての1か月の「限定戦争」ではなく、1989年まで続く十年戦争であることを、アジア政経学会2020年春季大会において、本研究のメンバーが中心となって開催した分科会において発表した。これは従来の定説を覆すものである。

研究成果の概要(英文)：This study was an attempt to capture modern Sino-Vietnamese relations in a cyclic manner from the aspects of language, religion, history and international relations. In terms of language, through the study of Han-Viet in modern Vietnamese, we confirmed that the lexical ability of Chinese characters is alive and well. In terms of religion, we revealed that the popular religions of China had spread since the latter half of the 19 century, and that those currents have been passed down to the "Minh Su Dao" and "Cao Dai" to this day. In terms of history and international relations, we proposed that Sino-Vietnam War, which broke out in 1979, would not be a one-month limited war, but a 10 year war that would last until 1989. In the modern and contemporary history of Vietnam, including the French colonial period, it was found that Vietnam was consistently strongly influenced by contemporary China, although there was some defection and backlash.

研究分野：ベトナム地域研究

キーワード：ベトナム地域研究 ベトナム近現代史 ベトナム宗教 ベトナム語

1. 研究開始当初の背景

現代の中国とベトナムの関係は、安全保障の面でも、経済の面でも東アジアの動向に影響を及ぼすきわめて重要な関係となっている。ベトナムは中国と同じ社会主義国であり、またベトナムにとって中国は最大の輸入先である。しかし南シナ海問題では中国とベトナムは緊張関係にあり、反中デモが発生したこともある。そんなところからベトナムは歴史的にもまた安全保障的にも反中だとみる見方が根強い。しかし事柄はそう単純ではない。ベトナムを反中一色だと見なすことは危険である。いったい最終的にベトナムは中国側につくのか、西側につくのかを慎重に見極める問題は、現代ベトナム地域研究に課せられた最大の課題だといえる。

2. 研究の目的

上記課題に対して、本研究は現状分析ではなく、もう少し長期のスパンで歴史・文化的にアプローチしようとするものである。言語的には、現代ベトナム語における漢字語彙の比重、用法比較、越製漢字語彙にみる漢字語彙作成力など、隠れた漢字文化の影響をさぐる。宗教的には中国の民衆宗教のベトナムへの伝播の様相を「明師道」、カオダイ教などにさぐる。ベトナムで「現地宗教」とか「内生宗教」と呼ばれて独自宗教と思われる宗教がいかにかの民衆宗教のインパクトをうけて成立したものであるのかを明らかにする。歴史・国際関係では中越戦争の再検討を主な研究課題とした。中越戦争は1979年2月から3月にかけて中国軍がベトナム領内に侵攻した1か月間の「限定的戦争」だとされてきた。しかし近年、中越の軍事的衝突はその後も続き、1984年・85年にはハザン省の中越国境ヴィスエンで大規模な戦闘があったことが明らかにされている。これらのことから、中越戦争を時間的・空間的に拡大して再検討してみようというのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、近現代ベトナムにおける中国プレゼンスの諸相を、言語、文化、宗教、歴史、国際関係の各面からの連環人文学的にアプローチする地域研究である。各面の研究班を組織し、言語は村上と今井、文化は村上と野平と今井、宗教は野平と今井、歴史は栗原と今井、国際関係は栗原と今村といったように、研究分担者は複数の研究班に所属して連鎖するようにして、相互の連環をはかった上で、研究代表者が総括していく方法を探った。

4. 研究成果

本研究は、言語、文化、宗教、歴史、国際関係の各側面から現代の中越関係を連環的に捉えようとする試みであった。

言語面では現代ベトナム語における漢越語の研究を通して、漢字のもつ語彙作成力が健在であることを確認した。刊行物としては『日越2か国語における漢語用法の対照』(全43ページ)にまとめられた。

文化研究ではベトナムの思想家ファム・コン・ティエンの主著『深淵の沈黙』が翻訳され、ベトナム思想研究が深められた。また口頭発表ではあるが、ベトナムにおける社会主義リアリズムの歴史について初めてまとめられ、影響元であるソ連とはその歴史的展開がおおきく異なることがあらためて注目された。

宗教面では、19世紀後半以降に中国の民衆宗教が伝播し、現在にいたるまでその潮流が「明師道」、「カオダイ教」などに伝えられていることを明らかにし、武内房司編『中国近代の民衆宗教と東南アジア』(研文出版、2021年)などに寄稿した。

歴史、国際関係の面では、1979年に勃発した中越戦争が1か月の限定戦争ではなく、1989年まで続く十年戦争であることを明らかにし、アジア政経学会2020年度春季大会で本研究

グループが中心となって分科会1「中越十年戦争（1979 1989）と現代」を開催し、中越十年戦争説を提唱した。

フランス植民地期を含むベトナム近現代史において、離反・反発もありながら、一貫して同時代中国の強い影響をベトナムは受けていることが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 21-1
2. 論文標題 書評：北澤直宏『ベトナムのカオダイ - 新宗教と20世紀の政教関係』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 218
2. 論文標題 ベトナムの宗教政策 - 信教の自由と国際関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野平宗弘	4. 巻 1134
2. 論文標題 ファム・コン・ティエン『文芸と哲学における新しい意識』緒言に代えての手紙	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 133-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野平宗弘	4. 巻 915
2. 論文標題 われらを救済したまうな<1968> ファム・コン・ティエンのベトナム戦争	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 237-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上雄太郎、今井昭夫	4. 巻 24
2. 論文標題 現代ベトナム語における漢越語の研究(10) - 2音節漢越語名詞の越化について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上雄太郎、今井昭夫	4. 巻 23
2. 論文標題 現代ベトナム語における漢越語の研究(9) - 非漢越語の名詞に前接する用法について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 1, 19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井昭夫	4. 巻 95
2. 論文標題 東遊運動後のファン・ボイ・チャウにおけるアジア連帯論と仏越提携論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 251, 270
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗原浩英	4. 巻 31
2. 論文標題 ベトナム・中国関係における「同志」性に関する考察-1950年代~60年代および1991年~現在(2017年)を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 47, 60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 今井昭夫、栗原浩英
2. 発表標題 中越十年戦争（1979-1989）と現代
3. 学会等名 アジア政経学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井昭夫
2. 発表標題 ベトナム文学史における社会主義リアリズム
3. 学会等名 社会主義リアリズム文学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今井昭夫
2. 発表標題 明治維新の王政復古・文明開化とベトナムのドイモイ
3. 学会等名 国際シンポジウム「明治維新とベトナムのドイモイ」（ベトナム・ホーチミン市国家大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野平宗弘
2. 発表標題 ベトナム戦争下のベトナム思想 - ファム・コン・ティエンの〈越〉と〈性〉
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会国際学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上雄太郎、今井昭夫
2. 発表標題 ベトナム化した漢越語の特徴について
3. 学会等名 ベトナム語・ベトナム学国際シンポジウム（ベトナム・トンドクタン大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原浩英
2. 発表標題 東南アジアにおける国家建設 - ベトナムを事例として
3. 学会等名 日本国際問題研究所公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原浩英
2. 発表標題 ベトナムにおける国家建設
3. 学会等名 歴史国際共同研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村上雄太郎、今井昭夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学ベトナム語専攻研究室	5. 総ページ数 42
3. 書名 日越両言語における漢語用法の対照	

1. 著者名 今井昭夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 83
3. 書名 ファン・ボイ・チャウ 民族独立を追い求めた開明的志士	

1. 著者名 野平宗弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 ファム・コン・ティエン 『深淵の沈黙』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	栗原 浩英 (Kurihara Hirohide) (30195557)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	村上 雄太郎 (Murakami Yutaro) (50239505)	茨城大学・理工学研究科(工学野)・教授 (12101)	
研究分担者	野平 宗弘 (Nohira Munehiro) (80711803)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	今村 宣勝 (Imamura Nobukatsu) (00796154)	東京外国語大学・その他部局等・講師 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関